

深川消防団ニュース



さきもり

発行 深川消防団

所在地 〒135-0042
東京都江東区木場
3丁目18番地10号
深川消防団本部

TEL:03-3642-0119

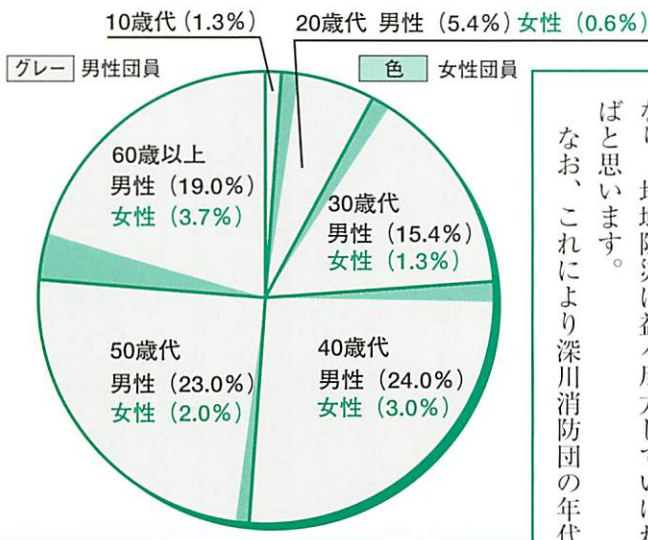
FAX:03-3641-4422

深川消防団 団員定数 100%達成!!



19年度の線法大会開会式にて、整列する深川消防団員

9月1日現在の深川消防団団員年齢別分布



この度、9月1日現在の団員充足状況の取りまとめが発表されました。当消防団では定員290名に対して、現員291名（うち女性団員32名）で、充足率100%となりました。この事は、団員の皆様、町会・自治会をはじめ深川地域の皆様、深川消防署の皆様のご努力の賜物であり感謝する次第です。

団員数が増加すれば、災害時に深川消防団として大きな防災能力を持つ事ができ、地域の災害への抑止力が高ま

るわけです。その意味においても団員定数が100%になったと云うのは大きな意味合いを持つ事になります。消防団員の増員は長年の課題でした。東京消防庁におきましても、特別区において消防団協力事業所認定制度を設け、各事業所の社員の方々に消防団への入団促進を奨励し、協力事業所には東京消防庁より消防団協力事業所という表示証が交付されています。

当深川消防団へも数社の事業所よりご協力を頂き社員の方が入団して頂きました。

皆様のご協力、ご努力により深川消防団の定数が充足されました。この事が団員の今後の消防団活動への励みになり、地域防災に益々尽力していければと思います。

なお、これにより深川消防団の年代

別構成は円グラフの通りになりました。但し、分団毎にみると、定員に対する充足率はかなりの差が出ており67.8%から120.6%となっているのが現状です。

これは、各分団の地域的な環境にも影響があると分析されますが、定員減の分団は一層の団員数の確保をお願いしたいと思います。

また、少子高齢化、企業及び組織への勤務増等の現在の社会情勢を顧みますと、これから先の消防団員確保に多少なりとも影響が出て来るのではとの心配する向きもあります。

地域住民の中から常に多くの団員が入団してくるか、深川消防団全体で考えて行かなくてはならない課題と思われ

- この事を考慮しつつ充足率100%になったとはいえ、更なる入団促進の努力を惜しまず、情熱を持って推し進めて行こうではありませんか。
- 参考までに深川消防団地域における協力事業所は次のとおりです。
- ① 株式会社 フジクラ
 - ② 株式会社 ムトウユニパック
 - ③ 株式会社 富士マート石島本店
 - ④ ホテル イースト21東京
 - ⑤ 株式会社 テイソウ
 - ⑥ 寶紙業株式会社

(第六分団 青柳 編集員)

(順不同)



東京消防庁 第七消防方面本部 訪問記

我、深川消防団地域を管轄している、東京消防庁第七消防方面本部を今回訪ねてきました。

森下出張所と同じ庁舎内に位置して、江東区・墨田区・葛飾区・江戸川区、4区内の消防署9署を統括している、都内（東久留米市、稲城市、島しょ地域は除く）に10方面本部ある中の東京消防庁の機関の1つです。



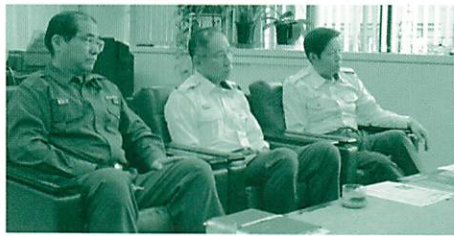
森下出張所内にある第七方面本部

林 第七方面本部長

方面本部は東京消防庁の組織ではありませんが、我々消防団とは、関わりが薄く正直どのような任務をしているのか、よく理解できないところがありました。

そこで今回、林第七消防方面本部長、小寺第七消防方面本部副本部長及び山中指導係長ら3人とお会いし、色々とお話しをお伺いしました。

方面本部の仕事として、第一に上げられるのは東京消防庁からその年度の方針が出され、消防行政上の政策等を、方面内の実情及び方面内各署の状況に合わせて具現化したものを方面内各署に指示・指導する役目を任としています。さらに、行動監査と言って方面内で発生した火災等について、解析・考察する任務があるそうです。



右より 林 方面本部長、小寺 副本部長、山中 指導係長

他に災害時における諸部隊の動きを管理したり、指揮支援体制をとったりしています。そこで災害現場には、以上の様な任務遂行の為、方面本部唯一の消防車両であり、方面本部指揮隊が乗務する指揮隊車が災害現場に出場しています。本部長・副本部長からは、我々消防団員に期待する所が多いにあり、また、感謝をしているとの事でした。災害現場においては情報が一番大切ですので、地域に密着した団員からの情報に対しては特に期待する所であり、

災害時に分団或いは班単位の組織活動を行い、しかも、地域での防災の活動をコーディネートする様に防災リーダーの役割を果たしてもらいたいと我々の役割に大きな思いを寄せていました。さらにこれからは、我々消防団員は火災時において後方支援ばかりではなく、前線において消火の活動をもっと積極的に行ってほしいとの興味ある提言を頂戴しました。

団員の皆様、方面本部の事が少しでも分かって頂けましたでしょうか。これから、火災をはじめとする災害現場で、方面本部の活動に感心を持って見てみては如何でしょうか。

(団本部 斉藤部長)

Air Rescue 空の消防って？

東京消防庁 航空隊

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

7月25日(水)に江東区新木場四丁目にある江東航空センター(夢の島新東京ヘリポート内)に行つて来ました。

ここに「東京消防庁航空隊第三飛行隊」があります、私達がよくニュース等でヘリコプターが取材している模様を目にしますが、ここ東京ヘリポートから新聞社・警察・民間等のヘリが飛び立

つてきます、赤い機体の消防ヘリも、ここからきます。

取材報告の前に消防航空隊の概要等を紹介します

東京消防庁航空隊・1967年活動開始

●本部・立川飛行場(東京都立川市)

●装備

ヘリコプター7機

●運用拠点

立川広域防災基地と東京ヘリポート

●編成 ●隊本部(立川飛行場)

・第1飛行隊

・第2飛行隊

●江東航空センター(東京ヘリポート)

・第3飛行隊



金子第3飛行隊長

今回は我々消防

団員に情報の少ない

「ヘリコプター

救急」の活動の状

況や消防団に思う

ところ等を東京消防庁航空隊

第3航空隊長・金子消防司令にお話を

伺いました。

ヘリコプター救急とは、その名の通り

ヘリコプターを使った救急活動のことです。滑走路を必要とせず、適当な空



訓練をかねた定時飛行で立川基地へ



深川消防団員募集中!!
女性・勤務者
・学生の方大歓迎
・18歳以上の方
・入団資格
・心身ともに健康で、

き地さえあれば離着陸可能で、自動車より速度が速いためコストは高いものの非常に有効な救助活動ができると話していただきました。

日本では救急自動車が救急搬送の責務を負っていますが、生命に危機が迫り緊急を特に要する場合などにヘリコプターによる救急搬送をおこないます。

「阪神淡路大震災」において消防・防災用途のヘリコプターが不足し、災害救助・救急活動に非常に支障を期したことを教訓に、整備を強化、ある程度数の消防防災ヘリが、1998年頃ほぼ全国に配備されたそうです。

我々の住む東京都では、都と連携した東京消防庁が24時間体制で消防ヘリによる救急搬送を行っています。航空隊では、(5万時間航空無事故)達成・(救急出場回数5千回)達成等の素晴らしい実績があります。また年間270回程度の出場で、山間部3割・高しよ地区へは7割(平成15年より、伊豆諸島全島運航になり3日に2回)の出場がありかなりハードです。

更に、驚かされたのは離着陸時には、格納庫からけん引車で機体を出し、バッテリー車で始動させ、滑走路まで移動、これ全て隊員みなさんで協力して行います。

(自給自足?で大変!頭が下がります) 消火活動する現場上空では、報道ヘリ等と交錯する事が多く、右旋回の原則

や目視、無線等を使い対処します。

林野火災等で空中消火を行う場合は火災の鎮火まで活動しています。

平成16年12月には、ヘリコプター飛行中、航空救急員により、除細動を3回実施しました。

消防団に思う

ところは、直接の接点はないのですが消防隊と同じく、我が町を知り尽くした団員の活動に大きな期待をしています。



全員で離陸準備する模様

「緑のヘルメットを空から見つけると大変心強い!」気持ちになるそうです。我々消防団には一番やり甲斐を感じる言葉ですネ!

追伸

江東航空センターの住所って、東京都新木場4丁目無番地

みなさん知ってました?

(第一分団長谷川編集員)

永代出張所訪問

前身は「永代橋消防署」でしたが、

東京大空襲で全焼し、昭和20年に深川消防署に所属する永代出張所として、復活しました。



大谷 進 出張所長

昭和46年入庁、

品川消防署勤務を経て本庁(大手町)以降、

隅田川の西に勤務して深川の地に来たのは、枝川出張所でした。

平成16年4月1日より所長として着任。

出張所概要

ポンプ車2台

26名体制

第五分団・第六分団を担当

地元のご老人に聞くと永代出張所付近(永代通りと葛西橋通りの合流点)

は昔、深川を中心であったとのこと。又、永代二丁目在住であった平川秀雄さんの著書『巷談 深川永代』にもか

かれていて、その場所で勤務出来る事に感激しています。出張所での思い出

は、深川には神社・仏閣が多く、特に江戸三大祭りの富岡八幡宮祭礼で警戒

した事が強く残っています。又、飲食店等が多いので、救急等の

出動が多いかと思われたが、担当地区に約30町会があり、お神輿を通しての

連携が非常に強く感じられ、「町会・消防団が町を守っている」との印象が

あり、これも又、頼もしくも感じます。地元を私服で歩いていても

『所長!どこ行くの?』と声をかけてくれる時など下町特有の

親しみと親近感を感じます。

(第五分団 高橋 編集員)

(第六分団 青柳 編集員)

消防団 豆知識

消防出場制度について

災害(火災)が発生した場合、消防署には出場制度があります。これについて説明いたします。

出場種別として普通(火災)・出場・対象物出場・高速道路出場・危険物(油脂)火災出場・大規模災害出場・方面応援隊出場の6出場があります。

この内、消防団としてかわり深い普通(火災)・出場と対象物出場について述べたいと思います。

普通(火災) 出場
 出場区域として消防署管轄区域の町丁目単位に指定されます。その内出場区分として第1出場から第4出場があり各消防隊の出場隊数が決まっています。

第1出場
 ポンプ車隊7隊(最大)、はしご隊2隊(最大)、救助隊1隊、救急隊1隊、指揮隊1隊

第2出場 第4出場
 各々出場毎にポンプ車隊6隊づつがそれぞれ増強されて出場いたします。

対象物出場
 大規模又は多数の人命危険、消防活動上の重大な障害或いは延焼拡大がある等の特殊対象物別に指定されます。その内出場区分として第1出場から第4出場があり各消防隊の出場隊数が決まっています。

第1出場 指定隊数22隊(最大)
第2出場 第1出場にさらにポンプ車隊、はしご隊、救急隊など消防活動上必要な部隊を指定

第3出場 第4出場は各々出場毎にポンプ車隊と指揮隊が指定の上、増強されて出場いたします。

以上のような枠組みで災害時には消防署は出場体制をとっています。



地域の安全消防 自分たちの町は

お問い合わせ ● 深川消防団本部(深川消防署内) 電話 03(3642)0119

平成19年度江東区
総合防災訓練記

平成19年9月1日(土)夕方から2日(日)早朝にかけて江東区総合防災訓練が越中島小学校をメイン会場とし実施されました。

この総合訓練は、大きな災害が起きた時を想定して、江東区内の住民の避難を含め、給水、給食等の供給に対して、各地域、事業所が一体となって、行う防災訓練です。



住民による消火訓練

この地区担当の第六分団では、越中島小学校と調練橋公園の二か所に分かれて、防災訓練指導を実施いたしました。

調練橋公園においては、近隣町会・自治会員、災害協力隊の方々を対象に初期消火についての説明及び消火器による消火訓練、応急救護として三角巾の取り扱い方の説明を実施いたしました。

また、越中島小学校校庭においては、けが人の搬送の実演を行いました。その他に、消防署員による倒壊家屋及び自動車車内からの救出、災害協力隊によるバケツリレー、各飲食組合によ

る炊き出しなどが実演されました。

最後に、第六分団をはじめとし、牡丹一丁目・古石場一丁目西町会合同災害協力隊、永代一丁目災害協力隊ともに放水訓練が披露されました。

演習終了後には、この総合防災訓練の一つとして、一般住民の方々には、翌日(2日)早朝まで、越中島小学校体育館での避難生活の実体験が行われました。

(第六分団 青柳編集員)

大型台風9号関東接近

「水防第二非常配備態勢」発令

9月6日(木)台風9号が関東地方に接近した為に東京消防庁が、「水防第二非常配備態勢」を発令しました。深川消防団員133名が団本部・各分団本部に水防警戒のため参集した。

東京地方に大型台風が接近するのは近年にはあまりなく、更に台風9号はゆっくり進んだ為、大雨・洪水を危惧した我々消防団は台風災害への警戒に当たった。

仕事を早く切り上げたり、ネクタイをはずし活動服で直行した団員など、普段から地域の状況を把握している、多くの団員が直接水防事象に備え万全の態勢を敷きましたが、幸い深川地区に大きな被害もなく台風は東北地方へ抜けて行きました。

(団本部 斉藤部長)

平成十九年度夏季幹部懇親会

【期日】8月29日(水)

【場所】ホテルイースト21東京

平成19年8月29日 ホテルイースト21において恒例の平成19年夏季幹部懇親会が行われました。

増茂団長を初めとして、深川消防団友の会、団本部・各分団幹部が出席し、ご来賓として、深川消防署山根副署長からご祝辞をいただき、友の会代表の唐鎌五郎様の乾杯で開宴いたしました。



増茂団長のあいさつ

会場内ではご出席の方々との交流が至るところで交わされ、終始、和やかなムードで、懇親会が行われました。

友の会の皆さんも『まだまだ現役』といった感じで、当時、活躍(出動)されたことなど、いろいろとお話をしていたいただきました。

最後に、友の会岩崎様による木遣りの一節にて、今井副団長の一本締めでお開きになりました。

(第六分団 青柳編集員)

操法大会選手で初出場

入団三年目にして操法大会選手となりました。昨年までは少しばかり気楽な気分に参加していた操法大会の練習ですが、今年は随分と重圧を伴いました。仕事をやりくりしての練習日程の確保も大変でしたが、それよりも思ったように体が動かないというもどかしさは如何ともしがたいものでした。努力不足を否めないまま迎えた大会当日ですが、それでも自分なりに精一杯の力を発揮することができたのではと思っています。分団をあげての練習、地域の方々の応援などにパワーをもらえたお陰ではないかと感じました。

来年も選手をやらせていただくとはいませんが、さらに練習を重ねて着実に技術を向上し、大会においてより上位を目指せるよう頑張りたいと思います。

(第五分団 高橋編集員)

編集後記

本号の企画編集作業が始まった頃の、七月十六日、新潟県中越沖地震が発生した。万が一、この様な大地震又はそれ以上の大地震が、我々の東京で起きたら、消防団員である私たちは地震災害に対応しなければなりません。そう思うと、今回の地震を他山の石とせず自身自身の事と捉え、日頃の活動、訓練に積極的に参加しその時に備えなければならぬのではと思います。定員が100%充足された事はこういった観点からも喜ばしい事です。団員一人一人が震災への自覚を新たに、備えに万全を期したいものです。(頓珍漢)